

いいまち 議会だより



凜

第80号 平成30年1月15日
発行：長野県飯島町議会

P3

あれどうなった
就学援助費の入学前支給を
ひとこと広場
議会のハテナ？ 人事院勧告って？

P4～5

12月定例会 補正審議
臨時議会
消防団員定数見直し
千人塚公園に用地取得



P6

予算特別委員会



P7

社会文教分科会
補正予算質疑



P8

総務産業分科会
補正予算質疑

P9

総務産業委員会
千人塚公園視察
陳情審査



P10～11

井戸端会議
初の試み
出前懇談



P12

議案の表決結果

P13

頑張っています！広報委員会

P24

町民の声を議会へ
健康で動けること



町政を問う

ここが聞きたい

10議員が質問

久保島 巖

観光政策



何を狙うのか …… P14

橋場 みどり

国保税



県移管で弱者に影響は … P15

滝本登喜子

地域森林資源



「町民の森」整備を …… P16

坂本 紀子

小水力発電



町で事業化を …… P17

本 多 昇

コンパクトシティ



形成に向けた取り組みを… P18

中村 明美

新井用水



改修工事が急務では …… P19

竹沢 秀幸

英語教育



低学年への導入準備を … P20

浜 田 稔

アウトドア事業



リスクも冷静に分析を … P21

折 山 誠

町協力隊員



定住支援を …… P22

三浦寿美子

地域生活支援



サービスの担い手は …… P23

「一般質問」とは
行財政にわたる議員主導による政策の議論です。(通告順)

表紙の写真／飯島町弓友会初射会

追跡

あれ どうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情
その後のゆくえ

平成29年9月一般質問

就学援助費の入学前支給を

その後

平成29年12月補正 3月までに支給する



ひとこと広場

要介護の世帯へオムツ券等の援助が
あればうれしいです。
かと言って介護保険料の値上げは困ります。

千人隊への大型バスの乗り入れは
絶対反対です。「心安らく」完端で
来ている 人が多いため
管の分のようにしてほしいです。



飯島町観光協会提供

議会のハテナ?



人事院勧告って?



国家公務員は、争議権を認めない代わりに、人事院が給与などを勧告する仕組み。
地方公務員はそれに準ずる。

上伊那消防充実に伴い消防団員定数見直し 千人塚公園内の景観保全に用地取得

平成29年12月定例会は、7日から18日までの12日間の会期で開催。町からは初日に予算4件・条例3件が上程され、また最終日には、人事院勧告に基づく一般職並びに特別職の給与改定にかかる予算7件・条例2件が追加提出されました。

このうち議会初日に提案された補正予算4件は、特別委員会を設置、審査を付託し委員長報告を受け可決しました。その他議案は全て全員一致で即日可決しました。

条例改正

- 町職員育児休業等に関する条例一部改正
復帰職員の給与格差是正
- 町消防委員会条例の一部改正
知識経験者を全区から推薦できるように委員定数を1名増員
- 消防団員定員条例の一部改正
定員300人を250人に

補正予算

- ◇一般会計（補正6号）
5248万円増額し、総額50億8045万円

主な財源

・町税	700万円
・国県支出金	694万円
・寄附金	2623万円
・雑入	41万円
・借金	1190万円

主な支出

・ふるさと納税特産品	1633万円
・ふるさと納税基金積立	2600万円
・デジタル無線機	394万円
・障がい者福祉サービス給付費	880万円
・千人塚公園用地購入	28万円
・利子償還費	△1000万円



新たな活用が期待される取得用地

討 論

賛成

- ・災害用デジタル無線導入など町民要望に応えた予算（好村）
- ・入学準備に応じた就学援助費の年度内補正を評価（三浦）

- ◇国保特別会計（補正2号）
101万円減額し、総額12億213万円

- ◇後期高齢者医療特別会計（補正2号）
550万円増額し、総額1億3179万円

- ◇介護保険特別会計（補正3号）
128万円増額し、総額11億442万円

人事院勧告に伴う議案

- 条例改正
 - ・町特別職の給与に関する条例一部改正
 - ・町一般職の給与に関する条例一部改正

- 補正予算（給与等増額改定分）
 - ・一般会計 507万円
 - ・国保特別会計 9万円
 - ・後期高齢者医療特別会計 6万円
 - ・介護保険特別会計 12万円
 - ・公共下水道特別会計 10万円
 - ・農業集落排水特別会計 7万円
 - ・水道事業会計 8万円

観光地域づくり拠点整備事業始まる

平成29年第5回臨時会が、10月30日会期1日間をもって開催されました。

町から予算1件、契約締結1件が提出され、全員一致で承認・可決しました。

予算

○一般会計補正予算（第5号専決）

・衆議院議員選挙費用の専決処分 715万円

〈質疑・討論 無〉

○契約締結

目的 平成29年度飯島観光地域づくり拠点整備事業施設建設工事

○建物 木造平屋建て 鋼板葺き

○建築面積 292.21㎡

○施設概要 トイレ・炊事場
シャワールーム・待合休憩
スペースなど

方法 一般競争入札による契約

金額 7830万円

相手 下平建設株式会社

工期 10月30日から平成30年3月30日まで

建築場所 千人塚公園B&G
艇庫南駐車場の東側

質疑

問 厳しい工期だが具体的な日程は。

答 軟弱地盤対策など基礎工事が課題。契約後工程表の提出を受けて対応する。

問 予算に対する契約額・入札者数・落札率は。

答 予算額に対して97.9%・参加者は5社・落札率97.9%。

問 現在のトイレ浄化槽を利用とのことだが、耐用年数など大丈夫か。

答 浄化槽管理業者により、現在支障無いことを確認。

問 本案件予算議決に際して付帯決議をし、町長は決議に即して事業をすすめるとのことだった。その中の住民説明に対してはどのような対応をしてきたか。

答 七久保区・七久保片桐水利組合・北村自治会役員へ説明し、意見を求めた。住民へは10・11月広報で周知。

問 どのような意見が出て、どのような対応をしたか。

答 建設に反対する意見は無かった。「住民に利用される施設を」「周りを見渡せる展望台の建設を先にすべき」などの意見があり、全体計画の中で調整対応することを答弁した。

〈討論 無〉



施設の状況 1/4

議会・林務委員 合同研修会

10/30

今年は、町内の国有林を現地視察し、南信森林管理署の藤井統括森林整備官から森林計画の説明を受け、現地と机上により研修をしました。国土保全・水源の涵養・生物の多様性保全に果たす役割など、地球温暖化防止策へ率先して取り組んでいます。

長野県地方自治 政策課題研修会

11/9

県議会主催の研修会が県庁で開かれました。県総合5か年計画（平成30年～）と、来年度開校準備の進む長野県立大学の構想を学びました。

住民要望に沿った補正予算案を評価

特別委員会は2つの分科会を設けて質疑を行った後、全員で総括質疑と討論を行い、4件とも全員一致で可決すべきものと決しました。

一般会計(補正第6号)

質 疑

問 防災用無線機を、区や自治会などの自主防災会に配備する事にした理由は何か。また消防団にも配備すべきでは。

答 安否確認15分以内を実現するために要望があった。消防団へは運用状況により検討する。

問 就学援助費の増額理由は。

答 来年度の入学準備のため、前倒し支給を実施する。

問 心身障がい児タイムケア事業と障害福祉サービス給付費の増額理由は。

答 タイムケア事業は保育園閉園後も働いている親のため、また、障がい福祉サービスは若者の就労支援が増えたため。

問 自殺対策事業報償金の増額理由は。

答 前年実績より相談が増えた。30代前後の女性が多い。

問 子育て支援センターの職員1人減の理由と、今後の方向は。

答 当初一般職2人で予算化、その後1人退職。現在は嘱託を含め計4人で運営。

今後は土曜日開館や高齢者など、包括的なワンストップサー

ビスを構築する中で人員体制を考えていく。

問 千人塚に土地購入費が計上された。今後、観光振興に町内の宿泊施設充実を進めては。

答 当面キャンプ、民泊で対応。儲かるとなればまず民間資本が動く。

問 償還利子1000万円の減額を、速やかに行ったことは評価出来る。繰り上げ償還に充当してはどうか。

答 不用と判断し、来年6月の決算時補正を待たず減額するよう改めた。使い道は精査したい。

問 ふるさと応援寄付金を、給食センターの食洗機購入に使えないか。給食センターの前倒し改修も検討できないか。

答 意見を参考に考えていく。

問 ふるさと応援寄付は7000万円の見込みで、費用を差し引くと2200万円。町への思いを受け止める取り組みを望むが。

答 返礼は「モノ」目当てから、町との関係を深める「コト」に変えて行きたい。農業体験などを考えている。

討 論

賛成

- ・防災会への無線機配備は住民要望が反映されていて、適切である。(中村)
- ・就学援助費が入学時支給されることを評価する。(三浦)

反対意見はありませんでした。

また、下記3議案に質疑・討論はありませんでした。

- ・国民健康保険特別会計(補正第2号)
- ・後期高齢者医療特別会計(補正第2号)
- ・介護保険特別会計(補正第3号)



安否確認などに活躍！

社会文教分科会 補正予算質疑

平成29年度一般会計補正予算(第6号)の分割付託分・国民健康保険特別会計補正予算(第2号)・後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)・介護保険特別会計補正予算(第3号)を質疑しました。

主 な 質 疑

一般会計

問 障がい者自立支援事業の補装具の内容は。

答 昨年度の実績で予算を立てたが増えた。障がい者2人と障がい児1人の車椅子。

問 保育園の修繕料の内容は。

答 消防検査で、非常用照明装置のバッテリーの交換を、3保育園で14個分指摘された。

保健所の指摘で、東部保育園

の調理室入口扉の隙間改善。食器消毒保管庫2台分の修繕費で、購入すれば1台100万円だ。

問 各小中学校の就学援助費の人数は。

答 飯島小学校は6人、中学校は10人、七久保小学校は2人。

問 七久保小学校の鉄棒新設はどんな物か。

答 グラウンドの3連の古い物を撤去し、同じものを新設する。

問 子育て支援センターの人件費削減の内容は。

答 当初一般職2人だったが、1人減となったため。今は一般職1人・嘱託1人。

他に福祉と兼務で子育て支援コーディネーターが2人。

介護保険会計

問 介護予防・生活支援サービスの賃金の内容は。

答 12月から職員が4カ月休職するので、ケアマネジャー1人・事務職1人の賃金。

町図書館を視察

新しい取り組みに期待

12/13

昨年4月就任の小林光希館長に心意気を伺いました。

現在、嘱託1人・臨時職員3人で仕事をしているが、週3日の移動図書館日は、別に1人(2時間)頼んでいる。



隣に子育て支援センターが出来たので、利用者が増えた。夏休みには、芝生にトカラヤギを連れて来る人がいて、子どもたちが集まり賑やかだった。

ブックスタート事業は好評で、3つ目としてサード事業を提案したい。

中高年の読者に向け、人生の過ごし方・農業関係書などを増やし、花を飾り、季節のディスプレイなど、居心地の良い図書館にしたい。本のリクエストにも迅速に応えたい。



補正予算質疑

平成29年度一般会計補正予算（第6号）の分割付託分を質疑しました。

主な質疑

問 防災対策費のデジタル無線機は、田切の一部・本一・本四との通話ができないと聞いているが。

答 役場とは直接繋がらないが、各公民館とは繋がることを確認済みだ。

問 災害時には電波法で使用制限があるはずだが。

答 法的には調べていないが、自主防災会が使用することで大丈夫だと思う。

問 登録申請の際に使用基準など十分な説明が必要では。

答 申請は町で一括して行う。基本的には自治会と区の連絡に使ってもらう。

問 機器を配備することで、区や自治会の責任が生じることになるか。

答 責任は生じない。災害時に運用できるよう各区でマニュアルを整備されたい。

問 臨時財政対策債はこれで限度額一杯か。また、この時期の借り入れには意味があるのか。

答 1191万円が限度だが、1190万円とした。昨年は9月補正だったが今年は留保していた。必要になったため増額した。

問 ふるさと応援基金の今後の使い道は。また、実施計画に盛り込んでいるか。

答 4つの目的を示して寄付を集めた。どこに幾らとは定めていないが実施計画に盛り込み、来年度以降予算立てしていく。

問 ふるさと納税は昨年対比でどのような状況か。また、返礼品など経費はこれで全てか。

答 107%となっている。年度末に向け増える可能性はまだある。

問 千人塚公園用地買収の価格はどう決めたか。地権者の申し出を受け入れたのか。

答 平成23年に隣地を買い取った事例を地権者が承知していた。地目を3パターンで試算し、中間の価格に落ち着いた。

問 融雪剤はいつまでの分か。

答 当初と合わせて295万円で今季分。過去5年間の平均から算出した。約81t分になる。

問 償還利子を1000万円減額しているが意味は。

答 平成28年度か29年度になるか不明だったので、借り入れ利息を多く見積もっていた。不要になったので減額した。

問 翌年6月補正で行うより非常に良い。この財源を繰り上げ償還に検討すべきでは。

答 今まで決算時補正を行ってきた。今後使い道を精査していきたい。

問 役場庁舎管理費で水道代や電気代が増えているが何か。

答 老朽化により受水槽の水漏れがあり、漏水のための水道料が発生した。電気料は燃料調整費が上がり不足した。夏の猛暑も影響している。



老朽化が進行する

千人塚公園現地視察 12/13

千人塚公園内で進む耐震調査箇所と拠点施設の現状を担当課より説明を受けました。

城ヶ池耐震補強工事ボーリング調査視察

- ・ 7箇所ではボーリング調査中
- ・ 結果に基づき工法を決定し、次年度設計予定
- ・ 工事の関係上周辺の樹木は、必要な処置をする予定
- ・ 工期は平成30年度より2年間の予定



地震対策を万全に

観光拠点施設建設現場

- ・ 11月1日に着工し、進捗率は11%程度
- ・ 土台のコンクリート打ちが終わった状況
- ・ 年内は基礎工事を実施
- ・ 年明けから棟上げを行う
- ・ 現在あるB&G東側トイレは倉庫としての活用を検討中



建設が進む観光拠点施設

公園内用地取得箇所

- ・ 千人塚周辺の景観保全と、今後の利活用を検討
- ・ 接道が無い場合、建物の建設はできない
- ・ 眺望が良く、グランピングなどのテントの設営に適している



取得地から南アルプスを望む

陳情審査

不採択

◇9条を死文化させる自衛隊明記の発議に反対

提出者：「平和って何だ」伊那
谷 代表 角 憲和氏
賛成0 反対5

◆内容 自衛隊明記の改憲案が国民多数に支持されたとは言えない。

9条への自衛隊の明記に絞って問題点を明らかにし、内容からも改憲の発議に反対。

討論

反対 内容は主観的であり、議会として採択はできないが、6月にほぼ同じ内容の意見書を内閣に提出している。その後、総選挙を経て、新内閣が改憲を明言しているので、改めて独自の意見書を提出すべき。(浜田)

日頃感じている様々な意見をいただきました。

井戸端会議

議会主催の住民懇談会は、今年から地域に出向くことにしました。

12月1日に2会場（本郷第1集会所・上ノ原公会所）で、それぞれ昼と夜2回開催しました。

本郷第1集会所



〈昼の部〉

- ・千人塚の「旧紅葉園」の看板を早く取って、仮称でも良いので早く名前をつけたら。
- ・「旧紅葉園」は中を片付けてもらってから購入すべきであった。
- ・千人塚施設は、外部企業などに委託してはどうか。
- ・千人塚へのアクセスが問題だ。その先の林道整備もできていない。
- ・越百山は、通行止めになっているが観光資源である。発展させるためには資金力が必要。
- ・夢を持ち続け、少しずつ具現化していきたい。
- ・開発しない場所も必要。
- ・千人塚から与田切公園へと繋ぐエレベーターで一体化する。
- ・遊歩道やアクセスも重要。
- ・観光誘致にはゴミや騒音問題があることを想定すべき。

- ・トイレが良くないといけない。
- ・飯島町はアピールが下手なので、よその町の取り組みを積極的に学ぶなど工夫を。
- ・北海道東川町は、高校生の「写真甲子園」を行っていて印象に残る。大学の美術部と連携し、システムを作るのはどうか。
- ・ふたつのアルプス、雪のある時・無いときのタイムリーな情報発信を。

- ・飯島はすごく良い町であると、地域おこし協力隊と意見の共有ができた。

〈夜の部〉

- ・子ども広場のスタッフが減ってきていて、現場は大変である。
- ・七久保診療所の再開を望む。他の医院から交代で来てもらう事は出来ないのか。
- ・公害問題（種豚場）の臭いがある。この問題を知ってもらいたい。自治会から申し入れ改善されたがまた悪化してしまった。宅地の評価も下がる。
- ・離農に対する国の補助金が支給されていない。
- ・町臨時職員の身分では、療養休暇がなく退職せざるを得なかった。
- ・町の技術職の応募がないと聞くが。





〈昼の部〉

- ・「いちいの会」は年々増加するが「高齢者クラブ」は5団体。役員のなり手がなく、なくなるのではないかな。
 - ・飯島保育園の駐車場が狭くて保護者間の交流がしづらい。
 - ・飯島の水が一番おいしかったので飯島に住居を構えた。町の売りにしては。
 - ・祭りがなくなってきて寂しい。
 - ・人口減少なので、議員定数を減らすべきでは。
 - ・定数が減ると、住民の声をすい上げる力が無くなるという声もある。
- また、委員会審査が2～3人で総意になってしまう心配もある。

〈夜の部〉

- ・給食センターが30年経過し老朽化している。特にドライ化が必須だが、今設備だけ充実しても将来無駄が生じる。
- ・町の職員も現場で調理員と一緒に検討する機会が必要。
- ・新築計画にあたっては、場所・規模を決定し、プロジェクトチームなどによる専門的な検討が必要。

- ・3年後の計画を早めるように、現場の総意の声を上げ行政を動かすべきだ。
- ・子どものあいさつや礼儀が非常に素晴らしい。
- ・ファミリーサポートは利用者が少なく、子育て支援センターと統合してはどうか。日曜開館が必須。
- ・飯島で育った子どもが、将来ここで子育てができるのがよい。
- ・帰郷しても働く場がないと、子どもが言っている。
- ・買い物できる場所など、環境整備が必要では。
- ・移住・定住は、飯島だけ増え

- て他が減るという考えは変だ。
- ・米俵マラソンやミュージック・ウェーブなど好感が持てる。
- ・循環バスは年1800万の経費がかかっている。通学バスとの統合など、うまい使い方はできないか。
- ・町の施設は整っており恵まれた環境だが寂しい。どう活気をつけていくのか。
- ・町で高校がないのは近隣では飯島だけだ。
- ・千人塚の拠点整備は、アクセス道路が先ではないか。
- ・アクティビティパークは非常に良かった。
- ・町は知名度がない。千人塚は昔スケートで賑わった。スケートリンクを作ったらどうか。
- ・飯島の由来は飯島氏なので売りにできないか。
- ・リニア新幹線開通に向けて、飯島の宣伝・知名度アップに努めてほしい。
- ・議会報を毎号読んでいる。もっと深い議論があるのではと感じている。
- ・この懇談会を、耕地・自治会の月例会でやってみては。



表決結果

陳情

内 容	提出者	付託	結 果
自衛隊明記の改憲発議に反対	「平和って何だ」 伊那谷	総務	不採択 賛成 0 – 反対 11

討論 反対 ●主観が強く、趣旨不明部分が多い(浜田)

発議

内 容	提出者	結 果
種子法廃止に伴う対策を求める	浜 田 稔	採択 賛成11 – 反対 0
米価下支え制度創設を求める	竹 沢 秀 幸	採択 賛成11 – 反対 0
慎重な憲法審議を求める※	中 村 明 美	採択 賛成11 – 反対 0

※趣旨説明 陳情の主旨を尊重し、6月採択の意見書を新内閣に向けて再度提出(浜田)

議案

○は賛成 ●は反対

議 案 名	本 多 昇	滝 本 登 喜 子	久 保 島 巖	好 村 拓 洋	橋 場 み ど り	浜 田 稔	竹 沢 秀 幸	折 山 誠	坂 本 紀 子	三 浦 寿 美 子	中 村 明 美	審議結果
※議案の採決は、議長を除く11人で行います。												
町職員の育児休業等の条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
町消防委員会条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
町消防団員の定員、任免、給与、服務などに関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
平成29年度一般会計補正予算(第6号・第7号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
平成29年度国民健康保険特別会計補正予算(第2号・第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
平成29年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号・第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
平成29年度介護保険特別会計補正予算(第3号・第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
町特別職の職員等の給与に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
平成29年度公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
平成29年度農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
平成29年度水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

陳情

9条を死文化させる自衛隊明記の自民党改憲案による発議に反対する陳情	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	不採択
-----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

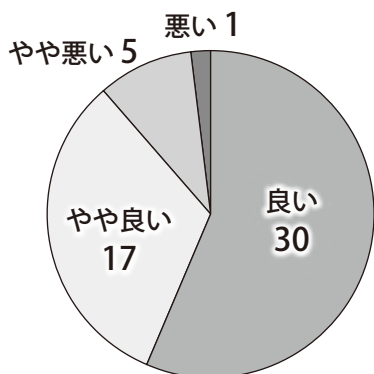
議員提出

種子法廃止に伴う万全の対策を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	意見書提出
米の生産費を償う価格下支え制度を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	意見書提出
慎重な憲法審議を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	意見書提出

頑張っています！広報委員会

議会特別委員会だった広報委員会は、平成29年4月から常任委員会として活動しています。併せて議会広報のモニター制度を試行しています。

モニターアンケート結果 (78号・79号)



モニター意見

- ・人の顔が見える写真が良い。
- ・町のイベントをアピールしているので良い。
- ・写真付きだから内容が文字だけよりわかりやすい。
- ・町のことを細かく書いてあり、わかって良いが、その前に読んでみようという気にならない。
- ・見ようと思わない。

発行の経過

定例会の2カ月後に発行していた議会広報を、平成25年12月定例会分の第64号から編集作業を1カ月短縮し、翌月発行にしました。

現在は、ペーパーレス化を実施し、プロジェクター使用のデータ編集を行っています。

編集作業は、議会前の作業計画に始まり、本会議翌月の上旬まで。皆さんに読んでいただける紙面作りのため、ほぼ連日作業を行っています。



照明を落としてプロジェクターで編集作業

議会広報研修

◆京都府精華町

10/2

精華町は、議会改革の先進地として「平成28年度町村議会特別表彰」を受賞しており、開かれた情報公開の進む議会でした。

議会広報は、住民にわかりやすい誌面・読んでもらえる広報を目指していました。表紙は町内の文化クラブへ委託し、撮影者の紹介と一言も掲載しています。

インパクトと見やすさを重視したページの構成になっていました。

◆大阪府河南町

10/3

河南町では「町村議会広報表彰」受賞の理由となった、表紙写真のあり方などを学びました。

表紙写真に、記事見出しが記載されており、取り入れたい表紙になっていました。

また、地域の隠れた名人を紹介する「人」シリーズを掲載し、編集委員自らが取材を行う取り組みをしていました。



久保島 巖

観光政策

何を目指すか

町民に自信と誇りを
町長

問 観光基本計画策定やアウトドアフィールド事業調査が進んでいる。町長は町の観光をどう考え、何を目指しているか。

町長 観光だけを特出して進めるわけではない。町が目指するのは観光地域づくりで、文化・自然・山・川のすべてが魅力ある地域資源であり、儲かる力を引き出したい。

問 重点施策に格上げして取り組んだらどうか。

町長 観光戦略会議を設けて、具体的事業が固まった時点で考えたい。

問 観光の最終目標は人口増・移住定住の増にあると思う。観光政策と併せて対応しておくべきと考えるが。

町長 都会の若者に田園回帰・人間回帰の志向があり、田舎の魅力が増してきている。人々を呼び込む仕掛けは大事だ。

もう1つは地域の皆さんに、この地の価値を認識してもらいたい。それが子どもたちの郷土愛の醸成になる。

問 生活環境や子育て環境の整備はイメージアップのためにも重要だ。観光振興で町のイメージはどう変わるか。

町長 大きく景観や外観が変わることはイメージしていない。

普段の生活や趣味が、都会の人たちには魅力的なことだと町民に知ってもらいたい。そば打ち体験や山歩き・川遊び・蜂追いなどにも、地域の皆さんの活躍の場がある。そういった変化を期待したい。

問 伊南DMOを2019年に設立する準備に入っている。町はどう対応していくか。

町長 駒ヶ根をメインにし、飯島・中川・宮田に観光客をどう流すかが大事だ。参加して、町が埋もれないため、しっかり魅力を発信していく必要がある。

問 観光計画推進やDMOの活用には、強力なリーダーシップが必要だ。外部招請も含め、人材確保や体制づくりが課題では。

町長 先頭に立つのは行政であり、次年度に向けて体制強化を図る。戦略会議には観光協会・町営営業部も巻き込んでいきたい。

問 「ふるさと飯島を見直そう」という活動をしている、中学校の学級がある。彼らと理事者・町議会との懇談を提案する。

教育長 飯中では「ふるさと飯島に思いを寄せ、未来を拓く生徒」を目標に学校全体で取り組んでいる。「ふるさと飯島町を見直そう」というのは、総合学習のくくりのテーマだ。今のところ理事者・議会との懇談希望はない。中学校や子どもたちの自主性を大切にしたいと考えている。

農業用水路の全面改良を

問 町の景観は水田の広がる風景に価値がある。基盤整備から50年経ち、農業用水路の傷みが広がり、早期の対策が必要だ。

多面的機能支払による部分改修でなく、抜本的な改修を求められているが。

町長 長寿命化対策と並行して大規模改修も計画的に進める。

〔以上2件質問〕



この景観を売り出したい

国保税

県移管で弱者に影響は

従来通り相談に乗る 健康福祉課長



橋場 みどり

問 国保の運営が、平成30年から県主体に移行され、市町村との共同運営に変わる。

改正の内容を問う。

町長 一番の改正ポイントは、国民健康保険の財政の安定化・事務の効率化を図る目的。

県が保険者となり、特別会計を設置し担う。町は財政運営以外の国民健康保険事業を従来どおり行う。町は県が決定した納付金を納め、県は医療費保険者負担分を支払う。

問 県へは100%納付が義務付けられている。この改正が負担となり、生活実態を顧みない徴収にならないか。

健康福祉課長 標準保険料率が示された後、町の国保運営協議会で保険税率を決定。住民税務課で相談に乗りながら対応する。

問 町が徴収できなくて、県の決定する納付金が不足した時どうするのか。

健康福祉課長 町には今、1億9000万円ほどの基金がある。取り崩す方向で考えている。

問 改正では、保険税の算定は町が行う。人口減少の中、収納率が低くなった時、県の対応はどうか。

健康福祉課長 県は基金を設ける予定だ。納付できない市町村には貸付制度を作ることが決まっている。

問 国保税が納付金制度で上がり、標準保険料率でも上がる。低所得者への救済は。

健康福祉課長 決定するのが年明けになるので、はっきり言えない状況。町の医療費は安いものの所得水準が高いので、急激に上昇する場合は、激変緩和措置*の適用が考えられる。

*保険料の著しい変動を考慮し実施。期間は原則6年まで

問 収納率が低くなっていった時、滞納対策を強化するのか。

健康福祉課長 今までと同じに、住民と一緒に相談しながらやっていきたい。

問 制度改正により町の役割は変わるか。

健康福祉課長 窓口においては変わらない。住民と身近な関係を保つ。

問 町や高齢者・低所得者を圧迫する仕組みをどう考えるか。

町長 皆で助け合おうと言う精神が働いている。助け合っている部分が広がったと感じる。

健康福祉課長 保険税の収納では、今まで以上に協力いただきたい。

問 減免措置の状況は。

健康福祉課長 12月1日現在7件だ。

問 今後の社会事情により減免制度の見直しはあるか。

町長 国・県の上位法令の見直しで必要な場合は準じる。

〔以上1件質問〕



安心できる
国保に



弱者にやさしい国保制度を



滝本 登喜子

地域森林 資源

「町民の森」整備を 活動している町民を支援したい 町長

問 エネルギー資源としてのペレットストーブ・薪ストーブの状況と普及の取り組み・薪ストーブへ補助の考えは。

町長 役場庁舎内にもペレットストーブを設置してPRしている。ペレットストーブの補助実績は14台である。

産業振興課長 薪ストーブへの補助は実施計画に載せていない。使用者を掌握するのが大変で、慎重に検討する。

問 森林税活用に、観光地の景観整備が挙げられている。「町民の森」整備を求めるが。

町長 整備をしようとする有志が動き出していて、町も支援したい。各団体と協力して、エコツーリズムなどの活用で利用していきたい。



自然の温もり

飯島版DMOを

問 地域資源を活かした、飯島版DMOへの取り組みは。

町長 今後、行政・営業部・観光協会・地域住民などで構成した観光戦略会議を立ち上げ、検討を進める。観光振興により地域が儲かる仕組みなど、町の魅力を高める取り組みを行う。

問 道の駅と商店街の共存策を商工会は考えているか。

産業振興課長 現在、買い物弱者・高齢者のための連携した施策は無い。それぞれの店舗の役割もあるが、相乗効果を上げることも重要なので、連携を協議していきたい。

問 空き店舗の利活用で「まちの駅3号店」としてカフェや特産品販売などの場を作ることを求めるが。

産業振興課長 1号店と2号店は、交流の場として利用している。この2店舗の更なる利活用を進めることが先決である。

民間活力の中で図られることも大切で、新たな店舗づくりの改修補助・創業支援制度はある。

コミュニティースクール

問 両小学校の状況は。

教育長 七久保小学校は国の基準に沿っており、飯島小学校は学校運営委員会として県独自の少し緩やかな体系。それぞれに支援コーディネーターを1名配置し、地域の支援を得ている。

教員は『地域の人から専門的な支援を受けられる。また読み聞かせの時間は、子どもたちの様子を見ることができありがたい』と言っている。

問 職員と地域住民との関わりなど、課題は。

教育長 学校・保護者・地域が協力して子供の成長を支える仕組みづくりである。地域が担えば、学校機能のスリム化・教員の負担軽減となる。

地域からは『子どもたちとの関わり方が解らない・もっと先生たちに負担してほしい』、教員からは『どう協働していくか・地域の要望を負担に感じる』などの声がある。

お互いに無理のない範囲で、継続して地域と学校のつながりを充実していくことが課題だ。

〔以上3件質問〕

小水力発電

町で事業化を

慎重に研究する 町長



坂本 紀子

問 温暖化ストップは、早急に取り組まなければならない課題である。

小水力発電の全国の状況は。また、県の取り組みは。

町長 全国では、1級河川での発電は118件(農業用水のみ利用は76件)。

県は、2020年までの第3次地球温暖化防止県民計画で、小水力発電キャラバン隊・水利権相談窓口など県庁に設け取り組んでいる。県企業局は、十分な収益が見込まれるダムを改修する予定。

問 町内民間企業の小水力発電の取り組みは。

住民税務課長 地元理解のもと田切の郷沢川に近接する用水路に、出力2kWの施設が昨年3月に完成。発電実績は年7755kWh。順調に稼動中。

問 岐阜県は、原発事故以前から、小水力発電にも力を入れて

きた。

小水力発電に対する所見は。

住民税務課長 許認可申請・利害関係者交渉など様々な手続きが必要。建設後も維持管理の費用・人材など必要。

町長 非常にクリーンなエネルギーであり、併せて水路改修もでき魅力的であるが、実現するには時間と費用が掛かり慎重に研究する。

問 中津川市運営の加子母^{かしも}発電所は、2級河川の白川からの農業用水路にある。建設費3億3800万円で50%は国補助・25%はそれぞれ県補助と市の資金。出力220kW・年間約5000万円の収益で農業関係事業に使用。とてもメリットがある。

町内の全域をもう一度調べてみては。

町長 平成27年度に県機関に委託し調査。準用河川、農業排水路・用水路などであった。膨

大な工事費が示され検討してない。町が支援している民間企業と相談しながら進めたい。

町内小中学校教員労働時間の現状は

問 教員の労働時間はどのくらいか。

教育長 5月の調査で1人当たりの月平均時間外勤務(残業・休日勤務・持ち帰り時間)は、飯島小学校76時間27分・七久保小学校56時間1分・飯島中学校86時間12分だった。管理職が把握し、ノー残業日を設けたりしているが、なかなか減らない。

問 部活動に対する考えは。

教育長 現在指導員は、年度契約である。年度内に部活指導員制度(費用負担した指導員は引率もでき、長期間雇用となる)の策定を行う。次年度すぐに変更する予定はないが、学校の方針に関わることで、十分に検討したい。

問 新指導要領が始まるが、学校は週休2日であり、また教員の働き方が問題となっている。この状況で、個性を伸ばす教育が出来るのか。

教育長 心配だ。時間をやりくりし、知識偏重から深い学びの質へ誘導するよう支援したい。

〔以上2件質問〕



儲かる小水力発電



本多 昇

コンパクト シティ

形成に向けた取り組みを
暮らしでいける集落づくりを
町長

問 人口の減少・超高齢社会にも対応できるまちづくりの先手の施策が求められている。

都市の無秩序な郊外化を抑制し、市街地のスケールを小さく保ち、徒歩圏内を生活圏と捉えるべきだ。

このようなコミュニティの再生や住みやすいまちを目指す、コンパクトシティの発想をどう考えるか。

町長 居住する地域を集約していくことで、住民の利便性を高めながら効率的な行政を目指すということの中には、研究すべき要素がたくさんある。

問 飯島版「コンパクトシティ」の形成に取り組む必要があるが。

町長 集落内で生活を支え合い、住みなれた地域で暮らし続けるための仕組みづくり・集落の実情に合った福祉サービス・交通ネットワークの確保に取り組んでいくのが良い。

しっかり研究しなければならない。

太陽光発電規制強化を

問 飯島区からの条例改正の陳情による太陽光発電設置申請時の見直を、早急に行うべきでは。

町長 設置規則を見直し対応する。

問 自然エネルギー推進事業補助金「野建て」への見直しは。

住民税務課長 補助金の額・期間など、見直しを検討する。

問 公の施設の屋根貸し事業は対象が20件あり、公募の結果9件が決定し工事が進行中、残り11件の今後は。

町長 9カ所設置後の発電状況や、他施設の発電の有効性を検討する。

問 実施の場合、現事業者による継続か・新規の公募か。

今回は公募期間が18日と短かった。公募する際は、期間を長くし、公平性を保つことが必要だ。

町長 新規に公募する。公平性のある入札が大事だ。

防災拠点の 道路計画を早急に

問 柏木グラウンドやB&Gは避難施設に指定されているにも関わらず、大型車両が通行できない。

災害時の体制に万全を期すことが出来ないことは重大な不備である。

柏木周辺の道路・運動場の整備も進展する。

早期に路線の計画をすべきでは。

建設水道課長 将来的な柏木運動場周辺整備構想を見据えながら総合的に検討する。

他に、町中心部へ誘導する伊南バイパス看板設置の進捗状況を質しました。

〔以上4件質問〕



道路計画を待つ柏木地籍防災拠点

しん い
新井用水

改修工事が急務では

国・県へ予算要求を継続 町長



中村 明美

問 ようやく実施計画で32年度に計上されたが、ここまで遅れる要因は。

崩落すれば下の水道管を破損させる恐れがある。飯島区は、一刻も早く改善を切望している。計画の前倒しを求めるが。

町長 新井改修は、トンネルなどで膨大な費用が見込まれ、県による実施に向けて計画を提出し、県担当部署と協議を進めている。

一方、実施中の原井用水・千人塚があり、予算確保が非常に厳しい状況。まずは実施中事業の早期竣工後、順次緊急性の高い改修を進める。

問 32年度の500万円は設計費だが、着工はいつか。

産業振興課長 33年度から予定しているが、今進めている原井用水が予定より延びそうで確約できない。

防災ダンボールヘルメット支給を

問 火・水に強く耐久性もあり、折りたためて携帯できる優れ物。安曇野市は支給しており、当町も検討を。

教育長 低学年には組み立てられるか課題があるので、ヘルメットを教室に置く方が良いとの意見もある。近隣も参考に対処したい。

問 フィックスマイストリートアプリ(道路破損通知)の導入を。

総務課長 年54万円という費用面と使い勝手での課題がある。

介護保険 総合事業の浸透を

問 本年度から、要支援向けサービスの一部を総合事業に移行したが実態は。

健康福祉課長 町内事業者の協力で、これまでと同じサービスを混乱なく移行できた。また新規利用者へも希望するサービスができています。

問 該当者一人ひとりへの周知徹底が必要だが。

健康福祉課長 全員への通知は研究する。町内事業所や関係団体と協力し、利用が増えるよ

うに啓発していく。

子どもを性被害から守る 家庭での教育

問 昨年度、児童相談所における性的虐待対応件数は22件、相談ができずに悩んでいる子のほうが多いと推測する。インターネットの普及で、被害の低年齢化を懸念する。

文科省の規制で低学年の学校での教育は難しい。しかし家庭で教育するには資料不足だ。

町保健事業で、家庭の性教育の指導に努めるべきでは。

健康福祉課長 今後研究する課題としたい。また、教育委員会や男女共同参画、人権の部署とも一緒に考えていきたいと思う。

〔以上4件質問〕





竹沢 秀幸

英語教育

低学年への導入準備を まず担任が力をつける 教育長

問 小中学校における英語教育の現状は。

教育長 平成23年から5・6年生が、体験活動を通じて英語に慣れ、コミュニケーション能力を養う活動を行なっている。

中学校は、会話力の向上に力を入れ授業している。

問 学習指導要領改訂の内容は。

教育長 平成32年度から移行する。現在5・6年生が行っている英語活動は、年間35単位なので、おおむね週1回である。

今後、5・6年生は、教科としての英語となり、年間70単位になる。また、英語活動は

3・4年生に下りてくる。
来年度から移行期間に入る。

問 実施方法は。

教育長 県の研修に教員が参加して、全体の英語力の向上を図っていくことが第一。

5・6年生は担任が評価する。力をつけた先生を中心に、英語活動ができること。それにALT・英語指導助手が、密度を濃くサポートする。

ほかの市町村とも情報交換し、対応する。



楽しい英語活動

問 保育園における英語教育も今から想定して準備を。

教育長 保育園の活動の中で、英語の歌を歌ったり、体操のかけ声をワン・ツー・ワン・ツーにしたり、お母さんを交えて英語の紙芝居を見るなど、英語に触れることは良い。

園長にも意見を聞き、改まってやるというより、機会をとらえて子どもが親しむ形が良い。外部の人の力も借りながら行いたいと考えている。

農地付格安住宅の推進を

問 格安住宅の検討結果は。

町長 昨年9月、商工会建設業部会に農地付格安住宅構想の

研究をお願いしたが、具体的な提案はいただいていない。

問 農地法第3条の許可の下限面積を現行の30アールから10アール未満に。

産業振興課長 農業委員会は、移住者や在住者の要望に応えること、また増加する耕作放棄地の解消を目的として、経営面積10アール以下の場合でも、農地取得ができるよう制度緩和を検討中。

問 実施時期は。

産業振興課長 平成30年4月からの施行を目標。

問 町長の重要施策として取り組みを。

町長 農地付格安住宅の実現は、I・Uターン者の住宅環境整備も含めてスピード感を持って進

めたい。

飯島らしくこれを実現させ、田舎暮らしランキング日本一を目指したい。

10代有権者の投票率向上を

問 当町の取り組みは。

選挙管理委員長 該当者へ独自のチラシ配布実施。10代投票率は、昨年の参院選では48.86%、今年の衆院選では17.13%。

今後も教育委員会と連携して継続的な啓発活動に取り組みたい。

〔以上3件質問〕

アウトドア
事業

リスクも冷静に分析を

来年度中に精査する 町長



浜田 稔

問 9月議会でアウトドアフィールド事業構想を質した。3ヶ年計画の30年度と31年度に各1億2000万円という突出した金額が盛られていたからだ。

専門家による収益性も含めた調査を、観光基本計画に載せ、推進するとの答弁だった。

その後、観光基本計画案の住民説明会が行われたが、反応をどう受け止めているか。

町長 町民が使いやすい施設の整備や道の駅との連携など、裾野の広い提案が寄せられた。否定的な意見は無かった。

問 30年度に実施計画に予定されていた1億2000万円が消えた理由は。

町長 来年度は具体策を研究することとした。地方創生拠点交付金の事業計画は無い。

問 アウトドア専門家により、町内資源の活用を掘り起こした成果は評価できるが、課題が残る。

第三者によるSWOT（強み・弱み・機会・脅威）分析や、事業経営のリスク評価などを急ぐべきでは。

町長 広域連携や生物多様性への配慮なども含め、広く意見を求めて戦略を練っていきたい。

事業収支も甘い見込みにならぬよう、専門家の意見を得て来年度内に、計画を立てたい。



バランスの良い財政運営を

実質単年度収支の赤字
今後の見通しは

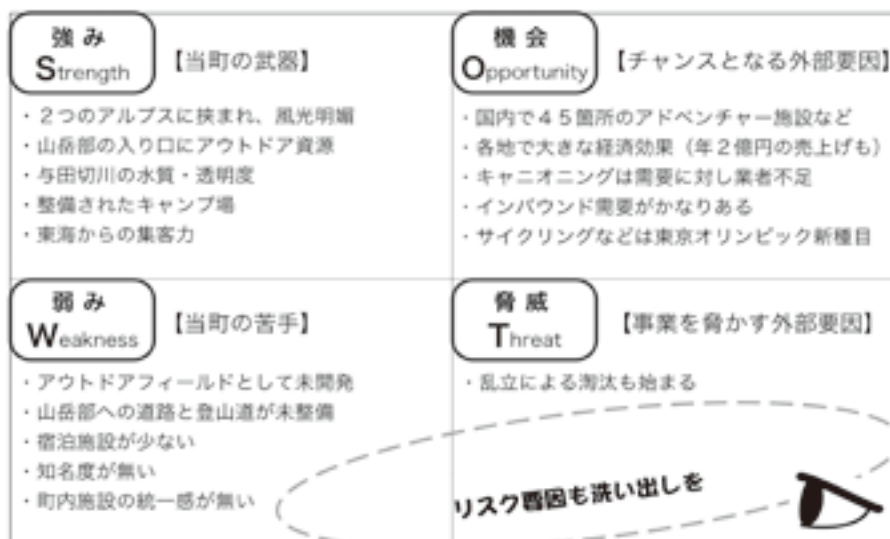
問 過去17年間を調べたら、実質単年度収支が赤字になったのはリーマンショック以来だ。

また自治体財政は収支均衡で運営されるべきだ。過去15年間の単年度収支は赤字と黒字を往復して、バランス良く運営されてきた。ここ2年はそれが崩れているのではないか。今後の見通しは。

企画政策課長 財政調整基金が目標の10億円に達し、一方で専決補正を改めたことなどで繰越額が増えた。「道の駅田切の里」や文化館の大規模改修なども重なった。

今後は実質単年度収支がプラスに転じる可能性があるが、予算執行中で交付金などの未確定要素もある。

〔以上2件質問〕



アウトドア調査報告に基づくSWOT分析



折山 誠

町協力隊員

定住支援を

話し合い寄り添う
町長

問 町おこしの情熱と、定住という決意をもって移住してきた協力隊員の採用と、活動状況は。



隊員の定住が地域の大きな力に

町長 現在13名、道の駅田切の里運営、まちなか活性化、農業・農村活性化、飯島町営業部、出会いサポートデスクと多岐にわたって従事している。

問 身分・給与・活動費などの処遇は。

副町長 身分は嘱託職員。給与と住居費で月額20万円以内。その他年200万円弱の活動費がある。

問 不慣れな地域での活動となるが、側面支援は十分か。

副町長 地域の理解や、隊員が自由に柔軟な活動ができるような体制づくりをしていきたい。

問 国から上限400万円の経費が交付される。思いのある隊員は行政組織に縛り付けず、活動費全額を自由に使ってもらい、モチベーションを高めることで成果が期待できるのでは。

副町長 予算科目に沿って職場によっては自由に使ってもらっている。

問 隊員の最終的な目的は、この町での定住だ。そのためのバックアップを地域とともに行っていくべきだが。

町長 制度ありきではなく、定住に向け、身の周り・方向性・仕事・事業資金など、いろいろなことを気軽に話し合い対応する。

観光計画・アウトドア
調査結果は

問 事業には多額な投資を必要としているが、民間資本など他力本願姿勢で、町民には夢物語として受け止められている。

強力な行政主導をもって成功させるという説明が必要では。

町長 今は、どんな可能性があるかという調査結果を示しているところ。これから徐々に実現に向けた説明をしていく。

七久保診療所閉鎖に伴う
患者対応を

問 一定期間、通院交通弱者の足の確保を求めるが。

町長 循環バス・公共交通・タクシーなどを利用されたい。福祉タクシー券も拡大したので利用いただきたい。

消防署の名称再検討を

問 伊南南署を飯島中川消防署など、地名を入れた名称を求める住民の声があるが。

総務課長 現名称は地域に馴染まれており、変更を働きかける考えは無い。

〔以上4件質問〕

地域生活
支援

サービスの担い手は

サポーターの養成で 健康福祉課長



三浦 寿美子

問 総合事業の要支援1・2の生活支援サービスの認定状況は。

健康福祉課長 利用者は24人。4月以降の新規認定者は11人である。

介護度はその人の状況に合わせて、相談しながら決めている。医療介護連携も行っている。

問 実施状況と今後の課題は。

健康福祉課長 町は「おひさまサポーター派遣事業」を始めている。生活支援サービスは、委託先事業所で養成講座を受講した職員が行っている。

課題は、1人暮らしになっても、認知症や病気でも、地域で暮らし続けられる生活支援サービス体制を整備すること。

問 今後「生活支援サービス」の利用者が増えるのではないかと課題は。

健康福祉課長 団塊の世代が65歳に突入し、支援の必要な人が増えていくと予想している。

担い手の養成が重要になっているが、サポーター養成講座の一般受講者は9人と低迷している。1人でも多くの人に受講して欲しい。

子育てしやすい環境整備を

問 子育て世代の生活環境をどう見ているか。

教育長 核家族も多く、仕事・育児・家事など想像以上の大変

さがあると思う。

産前産後・育児休暇の制度はあるが、職場復帰への不安や乳幼児期にお金がかかり、働きたいお母さんが増えていると認識している。

問 新たな施策の検討は。

教育長 子育て支援センターの土曜日開設を検討中。子育ての相談に対応できるワンストップサービス体制にしたい。保育料の無料化など国の動向を注視していく。



さらなる充実を

問 学童クラブの指導員の雇用形態は。

教育長 指導員は臨時職員。資格を持つ指導員が1人必要。勤務時間は2時半～6時が基本。6時半まで預かるので見合った賃金を支払っている。夏休みなど長期にも対応している。

利用児童は飯島約27人、長期約60人。七久保7人、長期

約25人。指導員は飯島3人～4人、七久保2人。長期の時はそれぞれ1人増員。

問 乳児保育はできないか。

町長 現在は10カ月から預かる。

専門家の意見では安全の問題がある。乳幼児突然死症候群は4～6カ月の子どもに多く、年間100人以上が亡くなっている。また、発達・成長への影響は未知数。1対1以上の保育士の確保と施設整備が必要になり、現

実的に厳しい。

町に「ファミリーサポート事業」があるので相談を。

県国保の仕組みは

問 県に「町民の声」が届く仕組みはあるか。

健康福祉課長 策定中の「県国保運営方針」の中に、県と市町村は連携して行くことが明記されているので、意見・要望・相談は町の担当に寄せて欲しい。

〔以上3件質問〕

町民の声を 議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回は、町内のソフトテニスクラブで活躍されている^{あしべ みなこ}芦部美奈子さんに登場していただきます。

健康で動けることが目標

昨年11月、滋賀県長浜ドームで行われた全日本シニア東西対抗ソフトテニス大会に「シニア45」女子東軍の代表として出場させていただきました。

出場に際し町への報告をメディアで紹介してくださり、多くの方から応援をいただき心強く戦うことが出来ました。改めて感謝申し上げます。

ソフトテニスは小学生から80代まで、それぞれクラスに分かれ大会が行われています。天皇杯や皇后杯、国体に出場するレベルの選手のスピードと力強いプレイもあれば、70・80・90歳になっても白球を追いかける技ありのテニスもあります。

現在、飯島町では児童生徒に向け、小学生の「サービスエース飯島」、中学生の女子の部活と「飯島ジュニア」で行われています。児童生徒はもちろん、指導者・保護者の皆さんとても熱心で、場所や時間を確保してソフトテニスができる環境を整えていただいています。

月刊誌「ソフトテニス」で連載をしている指導者の方や、日本トップの実業団監督だった方も来町くださり、指導をいただいています。

今年度、飯島ジュニアソフトテニスクラブが30周年を迎え、式典が行われました。この間に県での優勝、全国大会に出場するなど輝かしい成績

を収める選手もおり、長年携わってくださった方々のご尽力の賜物と感じております。

大人のクラブでは「エース」があり、親子・夫婦・友人とソフトテニスを楽しんでいます。親睦を深めつつ技を磨いています。以



前のソフトテニス大会に、90歳代の方が参加し表彰をされてました。

成績も大事ですが、健康で動けることを目標にして練習に励みたいと思います。

町と議会に望むこと

ソフトテニスからみると大会や指導会が出来る・人を集められる夜間照明付きの砂入り人工芝コートができると、新たな展開が望めるのではないかと考えています。

一人ひとりが暮らしやすくなるように、町の組織や設備もニーズに合わせて変更していく必要があると感じます。ニーズに合うよう町民の意見を取り入れ、協議していただきたいです。



夜間照明と芝生を!

議会だより

クイズ

問題

昨年末に住民説明会をした
〇〇基本計画

ヒントは
14ページ

正解者5名様にいいちゃん商品券進呈
(締切は2/28、発表は発送をもって代えさせていただきます)



応募要領
住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ
ハガキ・FAX・いいちゃんポストで、飯島町
議会事務局 議会だよりクイズ係宛まで

編集後記

80号から議員別の表決結果を掲載します。個々の意見・賛否をご覧下さい。

発行責任者 議長 堀内克美
編集委員 ◎橋場 ○折山
滝本・好村・浜田・坂本